

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

2020年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 156-0044

所在地 東京都世田谷区赤堤1-10-23 三井ハイム102

評価機関名 合同会社フェアリンク

認証評価機関番号

機構 12 - 213

電話番号 03-6379-1449

代表者氏名 加藤浩之

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤浩之	福祉、経営	H0201050
	②	湊 岳美	福祉	H0801018
	③	田鹿 勉	経営	H1301026
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	三鷹どろんこ保育園			
事業所連絡先	〒	181-0011		
	所在地	東京都三鷹市井口1丁目23番9号		
	TEL	0422-30-5923		
事業所代表者氏名	鈴木裕二			
契約日	2019年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 11月 12日			
利用者調査結果報告日	2020年 1月 25日			
自己評価の調査票配付日	2019年 11月 12日			
自己評価結果報告日	2020年 1月 25日			
訪問調査日	2020年 1月 29日			
評価合議日	2020年 2月 15日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査では保護者に対する書面によるアンケート調査を実施。施設長名の依頼状及び調査票、返送用封筒の3点を対象者の人数分の封筒に封入し、園に送付のうえ、子どもの送り迎えの際に保護者に配布してもらった。 ・利用者調査の一環として、担当評価者2名が午前中の戸外保育や、園児と同じ献立の給食を試食しながら食堂での昼食の様子を観察した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 月 日

事業者代表者氏名 理事長 高堀 愛香

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)センスオブワンダー 2)人対人コミュニケーション 3)わくわくしよう、やってみよう 4)6割は失敗しよう 5)職員同士でしっかりと話そう</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状に満足せずに自己の成長を常に意識している人</li> <li>・やってみせて背中であげて行ける人</li> <li>・より良い保育を目指して創意工夫していける人</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものことを第一に考えること</li> <li>・自分のわくわくを大切にすること</li> <li>・職員同士の議論を大切にすること</li> </ul>

調査対象	アンケートの対象は調査実施時点で在籍している子どもの保護者全員(ただし世帯単位)。2人以上の子どもが同じ通園している場合は、年齢がいちばん下の子どものクラスに関して回答してもらった。
調査方法	書面による無記名式のアンケート調査を実施。共通評価項目に対し「はい」「どちらとも言えない」「いいえ」「非該当・わからない」の4つの選択肢を用意。依頼状、調査票及び専用の返信用封筒を園経由で保護者に配付し、記入後、評価機関に直接郵送してもらった。
利用者総数	97
利用者家族総数(世帯)	77
共通評価項目による調査対象者数	51
共通評価項目による調査の有効回答者数	51
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	66.2

**利用者調査全体のコメント**

共通評価項目全体で、肯定的な回答(はい)の割合は約67%、そのうち、問1～問3、問5、問13ではその値が8割以上、中でも問1(子どもの心身の発達に役立つ活動)、問2(子どもの興味や関心に沿った活動)では9割以上に達している。一方、「どちらとも言えない」「いいえ」の回答を合わせた割合は全体で約27%を占めている。その中で、問6(安全対策)ではその値が約59%、問7(行事日程の配慮)、問8(職員との信頼関係)、問9(園内の清潔・整頓)、問12(子ども同士のトラブルへの対応)でも4割以上に上っている。問17(外部の相談窓口の説明)では「非該当・わからない」の回答が約43%を占めており、自由記述欄には「そうした状況がない」といったコメントが寄せられている。共通評価項目に加え、設問の最後に保育に対する総合的な満足度を5段階で尋ねたところ、最上位の「大変満足」と、それに続く「満足」の回答が合わせて8割近くに達しており、保護者の満足度はある程度高い水準にあると推測される。利用者調査の一環として、担当評価者2名が午前中の戸外保育、及び食事の場面を中心に観察調査を行い、その結果を訪問調査の際に園長に報告した。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも言えない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	47	4	0	0
実際の調査票の質問文(以下、Q):園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	46	4	0	1
Q:園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	6	1	0
Q:園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	40	9	2	0
Q: 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	44	2	0	5
Q: 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	20	21	9	1
Q: 安全対策が十分取られていると思いますか				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	27	18	5	1
Q: 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	30	18	3	0
Q: お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	27	16	6	2
Q: 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか				
10. 職員の接遇・態度は適切か	39	10	2	0
Q: あなたは、職員の言葉遣いや態度、身だしなみなどが適切だと思いますか				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	36	12	1	2
Q:子どもがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	21	14	7	9
Q:子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	7	2	1
Q:あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	37	6	1	7
Q:あなたやお子さんのプライバシー(他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと)を職員は守ってくれていると思いますか				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	13	6	0
Q:お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	35	11	3	2
Q:あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	8	5	22
Q:あなたが困ったときに、職員以外の人(役所や第三者委員など)にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリ1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
カテゴリ1の講評			
<p>施設長は運営責任者として子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている 共通の理念・方針のもとで保育関連事業を全国展開する法人グループが一体的な管理体制のもと、エリアごとに各事業所の運営をサポートしている。今年度より法人内の異動により就任した施設長は、必要に応じて保育の現場に入り、子どもと家庭の状況や運営上の問題等の把握に努めている。職員のモチベーションを高めながら、法人の目指す保育の実現に向けて、着実に歩を進めている。各職員のキャパシティを冷静に測りつつ、計画を前に進めるスピードを調整するハンドリングが求められる。</p> <p>法人全体で施設長のマネジメント能力の向上を目指した研修を計画的に実施している 施設長には日常の保育に関する事項や法人が設定した予算の範囲内で自園の経費をコントロールする権限が与えられている。法人全体として現場のトップである施設長の育成に力を入れて取り組んでおり、年間の研修計画に基づき、毎月、人材マネジメントと保育の質のそれぞれのカテゴリごとにテーマを設定して、同一エリア内の事業所の施設長が学びを共有している。研修の講師は法人役員の他、本社の管理職と施設長が交代しながら務めており、各事業所の主任クラスの職員による横断的な会議との連動を意識したカリキュラムを策定している。</p> <p>園が目指す保育について、保護者の理解を深めるためのよりよい説明が期待される 法人が目指す保育の基本理念や目標については、パンフレットやホームページ等に明示している他、入園時の面談や年2回開かれる保護者懇談会等の場で、園が目指す保育についても保護者に説明している。今回実施した利用者調査の結果から、保育内容を保護者に伝えきれていない側面もあることや、安全対策や行事日程に関して改善の余地があることが分かった。今回の調査結果を冷静に分析したうえで、保護者の目線に合わせた、よりよい説明方法の工夫が期待される。</p>			

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>法人と園で保育を取り巻く環境についての情報収集と保護者の意向把握をおこなっている</p> <p>法人では、園の運営に関して必要な情報の収集は施設長の役割としているが、本社が中心となって関連する法制度や業界の動向や社会・経済状況等に関する情報の収集を行い、その分析結果を毎月の施設長会議等を通じて職員に伝えている。施設長は市内の私立園長会に参加し、法令等に基づく都や市の制度対応等に関する情報を収集している。また、保護者との日常的なやり取りの中でニーズの把握に努めるとともに、法人全体として年1回実施するアンケートを通じて保護者の意向を集約し、保育の振り返りと継続的な改善に活用している。</p> <p>保育の全体的な計画との関連を整理しながら事業計画書の内容を吟味することが望まれる</p> <p>法人のフォーマットに沿って単年度の事業計画書を作成しており、その最後に「3か年計画」として、当年度を含む3か年の各年度における具体的な目標を謳っている。ただし、事業計画において、重点課題に対する取り組みの達成度を測る指標の明示が必ずしも十分とは言えず、その結果、事業報告における総括がやや漠然とした内容にとどまっている。園の運営管理の仕組みにおいて、事業計画の役割や位置づけを明確にするとともに、付表を含む保育の全体的な計画との関連を整理し、必要な内容を改めて検討することが期待される。</p> <p>園全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高める仕組みの検討が期待される</p> <p>昨年度の収支予算書は本社主導で編成しており、園の事業計画との関連に関して、施設長から明確な説明は聞かれなかった。法人では、年度の収支予算の作成において、今後、施設長が決定する範囲と権限を広げていく方向で検討を進めている。施設長に対する目標管理制度では、主に園全体の目標が設定され、半年ごとに達成状況を確認している。今後、事業所の目標と連鎖する形で職員一人ひとりの目標を設定する仕組みを整え、事業所全体の目標達成に対する職員の参画意識や責任感を高めることが期待される。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

法人全体として定期的な内部監査や自己点検の仕組みを整え、法令遵守体制を整えている

法人全体として独自の点検項目に沿って3か月ごとに内部監査を実施している他、職員一人ひとりが日常の子どもに適切に対応しているかを共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。また、各園における書類の整備状況や日々の職員配置の状況等について、法令の要件を満たしているかを本社が一元的に管理する仕組みを整えている。基準を下回った場合にはPCの画面上でアラートが上がることになっているが、実際には是正が必要な状態を把握しきれないケースも生じており、今後、何らかのサブシステムの整備が期待される。

保育士による虐待として、具体的な事例を挙げて定義を行い、マニュアルに明示している

利用契約時の重要事項説明の中で、虐待防止の措置として、速やかに行政の関係機関に連絡し、早期に子どもの保護及び保護者対応に当たることを謳っている。また、保育品質マニュアルの中で、保育士による虐待として、「子どもを呼び捨てにする」「交換条件を示す」など14項目の具体的な事例を挙げて定義し、該当する行為があった場合は、保護者及び行政への報告を検討すると明記している。さらに年2回、職員会議において、権利擁護の観点から日常の保育を振り返る機会を設けている。子どもに対する権利侵害を許さない法人の強い姿勢がうかがえる。

地域の親子が気軽に立ち寄れる居場所を目指して、子育て家庭の支援に力を入れている

法人全体として、地域の子育て家庭を対象に、園での制作活動や公園での集団遊びを親子で体験する中で、遊び方のヒントを学んだり、日頃の育児の悩み等を保育士に相談することでストレスの解消に役立ててもらい取り組みの展開を目指している。当園では、地域の親子が気軽に立ち寄れる居場所を目指して、園内の地域交流スペースでの調理体験や近隣の公園での青空保育等を実施している。昨年度は子育て支援事業全体で延べ1348人の地域の親子が参加し、状況を呈している。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>園運営における重大なリスクを軽減するための対策を講じている</p> <p>保育中の子どものケガや事故、感染症の発生その他、園運営における法令違反や職員の離職を重大なリスクと位置づけ、その防止に向けて、法人本部を中心とするコンプライアンス体制の整備や職員の意向を踏まえた研修の機会の提供、職員同士の自主的な学び合いの支援等に力を入れている。また、感染症予防のための衛生管理に努め、流行のシーズンを迎える前に衛生用品一式を用意し、それを使った汚物処理の実演研修を毎年実施している。今後、大規模災害発生時の対応や事業の継続に向けた具体的な対策を関係者・関係機関とともに検討することが期待される。</p> <p>子どもの安全確保に向けた職員間の情報共有と研修を通じた意識の啓発に努めている</p> <p>子どもが自然体験を始めとする様々な経験を通じて自分で考え、行動する力を育成することを法人の保育理念に掲げる一方で、活動中の事故や子どものけがを防止するため、事故あるいは事故に至る恐れのある状況等に関して、その当事者となった職員が書面にまとめて報告し、毎月の職員会議や日々のミーティングで情報共有を図るなど、安全管理に力を入れている。また、日常の保育環境に潜む危険に対するアンテナを高めるための職員研修の実施や、職員に向けた法人の通信に法人内外の事業所で実際に起きた事故事例を掲載するなど啓発に努めている。</p> <p>利用者の個人情報保護の仕組みと、情報を共有・活用するためのルールを整備している</p> <p>利用契約を結ぶ時点で、利用者から預かる個人情報の使用目的や使用の条件等を文書で提示し、保護者の同意を求めている。職務上、利用者の個人情報を知り得る立場にある職員や実習生には、退職後または実習終了後も外部に漏らさないことを誓約した文書への署名・提出を義務付けている。また、事務室内に鍵付き保管庫を設置し、個人情報を含む書類を分類・整理して保管している。組織内で共有することを目的に収集・蓄積している情報は法人のルールに従ってファイリングし、パソコン内またはキャビネットの所定の場所に保管して、職員に周知している。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる
カテゴリ-5の講評	
<p>職員の採用は法人の理念に対する共感を重視し、本部が一括しておこなっている</p> <p>職員の確保と定着を最重要課題に据え、保育士に関しては新規卒者の定期採用を軸に本社が一括して募集をおこなっている。求人難の折、職員からの紹介制度を導入している。選考に際しては法人理念に対する共感を重視し、職員に期待する人材像や共通のミッション等を明示して入職時に説明している。当事業所では開設3年目の今年度から施設長が交代した。若い職員が多い中で、失敗を恐れず、仲間とともに伸び伸びと仕事をする中で専門職としての能力を高めていくことを重視する姿勢を打ち出し、職員集団のモチベーションを高めている。</p> <p>職員のモチベーションの向上と職員間の連携による組織力の強化に取り組んでいる</p> <p>法人全体の人事制度において、職員に期待する能力やマインドについて、定着の度合いを所定の項目ごとに評価し、その結果を集計して昇給や賞与、昇格等に反映している。また、全社的な業務改善のプロジェクトに職員の主体的な参加を呼びかけ、現場からのアイデアや提案を積極的に取り入れるなど、職員のモチベーションの向上に取り組んでいる。当事業所では職員間の情報共有と職種間の連携に加え、職員同士が相互に気づきを伝え合い、指摘し合える関係性を高めることで組織力のさらなる強化を図ることを重点目標の一つに掲げ、取り組みを進めている。</p> <p>各人の役割や意向に応じた研修や個別面談での振り返りを通じて職員の育成を図っている</p> <p>施設長が年2回、職員との個別面接を通じて半年間の職務を振り返り、達成状況を評価したうえで、各人の課題や目標のすり合わせをおこなっている。また、法人として階層別の研修制度を整備し、職員一人ひとりの学習ニーズを踏まえて、個別の目標と連動する形で外部研修を案内している。当園では、毎月の職員会議における園内研修の実施に加え、法人内のエリア研修や保育のスキルアップを目指す自己啓発研修、市が主催する研修等に職員が参加して、学びを共有している。今後、職員の専門性の向上を図るためのより発展的な取り組みが期待される。</p>	

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
法人全体として、園内の子どものスペースを異年齢の子どもたちが自由に行き来し、子どもが自分の過ごしたい場所で、好きな遊びを、好きな友だちや職員と一緒に楽しむ姿を見守る保育を目指している。「ゾーン保育」の実現に向け、保育の質の向上をミッションに据えた法人全体の会議を月1回、本社で開催しており、系列園の中核的な職員が参加して、議論を深めている。当園では、2階の0~2歳児の保育室はそれぞれ独立した部屋になっている一方、1階の3~5歳児クラスの保育室は仕切りのないオープンスペースとなっている。開設3年目を迎えるに当たり、5歳児の人数が倍以上に増えることを見越して、幼児の保育室の環境設定を子どもが落ち着いて遊び込めるように工夫することを目的として、職員が他園を見学し、先進事例を学んで、部分的に取り入れる取り組みを進めてきた。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行ってなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 幼児の保育室に固定式の棚を置き、目的別のおもちゃの収納スペース兼パーテーションとして活用することで、種類の異なる遊びのコーナーが設けられた。棚の高さは子どもの身長と同じ程度で、各コーナーにはテーブルが置かれ、子どもたちがそれぞれの興味に応じて、ブロックの組み立てやコマ回し、絵本等で友だちと一緒に、あるいは並行して、落ち着いて遊びに集中する姿が見られている。園では、日をもたいた遊びの継続と子どもにとってわかりやすいおもちゃの片付け方、そして園庭の改良を次の課題に掲げている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

開設3年目を迎えるにあたり、「ゾーン保育」の本格的な展開に向けて、「職員全員ですべての子どもをみる」というスローガンのもと、子どもの午睡時間中の会議等を通じて、子どもの状況に関する情報のクラス間での共有を意識的に進めた。3～5歳児の幼児クラスには、もともと年齢別の担任を置かず、幼児グループの会議で月間及び週間の指導計画の検討とその振り返りを合同で行い、子どもと家庭の状況について情報の共有を図っていた。一方、0・1・2歳児クラスにはそれぞれ複数の担任が置かれ、基本的にクラスごとに会議を開いていたが、0～2歳児の乳児グループとして合同で検討する機会を増やしている。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度の取り組みを踏まえ、子どもたちが利用する階段の2階の入り口に設置されている柵の扉について、それまでは子どもが開けられないように常時施錠し、通過するときは大人の手で開錠していたものを、今年度の途中から時間を決めて開放し、子どもがフロア間を自由に移動できるように改めた。実施に先立ち、園内に保護者向けの掲示を張り出し、取り組みの意図や経緯を伝えたものの、不安を感じる保護者もあり、今後は安全対策について保護者がより理解しやすい伝え方を検討したいと考えている。実際には、取り組みを始めて以降、事故が発生しているわけではない。利用者調査のその他の項目についての回答結果を見ると、普段の保育が子どもの心身の発達に役立っているか、また、子どもの興味や関心に沿っているかといった項目では非常に高い満足度が示されている。職員と保護者との間の信頼感については利用者調査結果からは6割程度にとどまっているが、個人面談などの活用などを検討し、さらなる信頼関係構築に努めている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点（〇〇〇〇）	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
<p>グループ全体のホームページにより、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している</p> <p>グループ全体のホームページを通じて、共通の保育理念や方針、保育目標等を案内している。系列園での子ども実際の活動や生活の場면을撮影した動画や写真画像を使うほか、必要に応じて英語及び中国語の表記への切り替えを可能とするなど、ユーザーの多様なニーズに配慮している。ホームページの問い合わせフォームから利用希望の園を指定して資料請求や見学希望のオーダーを送ることもできる。昨年度リニューアルしたホームページの内容に関し、保護者の感想や意見等を集約して、さらなる充実に活かしていくことが期待される。</p> <p>見学を随時受け付け、施設長または主任保育士、事務職員が案内を担当している</p> <p>見学の問い合わせは電話等で随時受け付け、都合の合う日程を調整したうえで、施設長または主任保育士、事務職員が当日の案内を担当している。なるべく子どもたちの生活や活動の様子を見てもらうように時間を調整のうえ、パンフレットに沿って法人が目指す保育の理念やその実現に向けて力を入れている取り組み等を中心に説明している。パンフレットには写真画像が多く取り込まれ、子どもたちの生き生きした姿を伝えるレイアウトの工夫が見られる。法人では、すべての職員が自分の言葉で保育の理念等を説明できるようになることを目標に掲げている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>利用契約の際の保護者との個別面談で、子どもの保育に必要な情報や要望を把握している</p> <p>利用契約の際に書面による重要事項等の説明と契約書類の取り交わしを行うとともに、保護者から保育に必要な情報の提供を受けている。子どもの食物アレルギーや健康状態を含め、子どもや家庭の状況について、専用のアプリまたは所定の書面を通じて提供された情報をもとに、施設長が保護者との個別面談をおこなっている。また、保護者が育児において気になっていることや保育に対する要望等を確認し、統一した記録用紙に記入して、職員間で情報を共有している。</p> <p>子どもが園の生活に慣れるための個別の対応や保護者に対する情報提供に配慮している</p> <p>新入園の乳児には、なるべく特定の保育士が関わるようにし、子どもとの愛着関係を築く中で園の生活に慣れるよう配慮している。慣れ保育は必須とはしておらず、保護者の状況や要望に応じて対応している。標準的には1週間から10日程度かけて段階的に保育時間を延ばしている。法人全体として迎えの際にその日の子どもの様子を保護者にいいねに伝える取り組みに力を入れている。連絡帳に代わるスマホアプリを介した双方向の連絡ツールの活用により、保護者が子どもの園での様子を携帯端末で確認できることで安心感につながっている。</p> <p>卒園時は就学先に指導要録を送るとともに、必要に応じて個別の引き継ぎをしている</p> <p>年長クラスの子どもの卒園する際は個別の指導要録を作成して就学先の小学校に提供している。必要に応じて小学校に出向き、あるいは電話で子どもの状況について個別の引継ぎをおこなっている。途中での転園等の場合、状況に応じて子どもに対する個別の配慮事項等を所定の様式に記述し、保護者の同意のもとで転園先に情報提供する仕組みを法人として整えている。</p>			

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリ-3の講評	
<p>法人から配信された保育の全体的な計画と指導計画をもとに園の保育計画を作成している</p> <p>法人本部より毎年2月初めに次年度の全体的な計画と年間指導計画のひな型が各園に配信され、園の職員会議で当年度の振り返りをもとに次年度の計画を検討、作成する流れが明示されている。各クラスで月間及び週間の保育計画を作成のうえ、0～2歳児クラスと3～5歳児クラスのそれぞれのグループごとの会議で調整や見直しをおこなっている。法人の方針のもと、異年齢の子どもたちの育ち合いを保育の基本に据える中、日常の保育はクラスの垣根を超えて展開されており、今後は異年齢保育の計画作成等により、さらなる連携の強化を図ることが期待される。</p> <p>成長の連続性を大切に、個別のねらいを踏まえて保育記録を作成することが期待される</p> <p>各クラスの月間指導計画を踏まえて個別の月案または週・日案を作成し、日々の保育記録をもとに振り返りを行い、次期の計画につなげる仕組みを整えている。また、毎月すべての子どもの発達状況を児童票の項目に沿ってチェックし、子どもの姿の変化等を個別に記録している。法人の方針のもと、保護者からの開示請求を前提に、記録の質の向上を目指して法人全体の研修等でスキルアップに取り組んでいる。今後、個々の保育のねらいと実際の生活の場でのずれなどを確認しながら細やかに記録し、子どもの成長を促す保育につなげていくことが期待される。</p> <p>毎週の乳児・幼児のグループごとの会議等で子どもの状況を確認・共有している</p> <p>0・1・2歳児の乳児クラスには年齢ごとの担任を置く一方で、法人では3～5歳児の幼児クラスに関しては異年齢保育を基本として年齢ごとの担任は置かない方針としている。子どもの午睡時間中に乳児の各クラス及び幼児グループの会議をそれぞれ週1回開き、週間・月間指導計画の振り返りや検討、子ども及び家庭の状況の確認・共有等をおこなっている。また、月1回のリーダー以上の役職者による会議で、全体にかかる問題の把握や検討をおこなっている。</p>	
サブカテゴリ-5	
5	<p>プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b></p>
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
<p>保護者より個人情報や写真使用の承諾を取るとともに取り扱いのマニュアルを備えている</p> <p>利用契約の際に、利用者の個人情報の使用目的や使用方法等について書面で説明し、保護者の署名をもって同意の意思を確認している。必要に応じて療育機関や医療機関等に個人情報の外部提供を行う際は、その都度、保護者の意思確認をおこなっている。また、園の毎月の通信等には子どもたちの日常の活動の様子を生き生きと伝えるために写真を多用しており、その際は顔写真のアップは避けるとともに、保護者より使用の承諾を受けている。法人として個人情報の保護に関するマニュアルを整備するとともに職員に対する研修を行い、周知に努めている。</p> <p>子どもの意思を尊重し、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視している</p> <p>法人として、子どもの人格を尊重し、子どもが自分でできることを見守る姿勢を重視しており、人権擁護の観点から、職員一人ひとりが日頃より子どもに適切に対応しているかを法人共通のチェック項目で自己点検する取り組みを年2回実施している。今回の観察調査においては、子どもに対する職員の接し方は全体として抑制的で、子どもに強い調子で指示をしたり、職員の声が響き渡るような場面はほとんど見受けられなかった。</p> <p>子どもの養育環境を見守り、法人本部及び関係機関と連携して対応する体制を整えている</p> <p>登園時間はある程度決められているものの、保護者の就労や家庭の状況等に応じて、柔軟に対応している。家庭での子どもの養育環境が気になる場合は、担任からの報告を受けて施設長が保護者に声を掛け、相談に応じるとともに、必要に応じて法人役員に報告のうえ、関係機関と連携して対応する体制を整えている。また、法人全体の地域貢献の取り組みとして、園の玄関にはサイズが合わずに着られなくなった子ども服を保護者や近隣住民が置いていき、そこから欲しい服を誰でも自由に持っていきける「勝手籠」と称するバスケットを設置している。</p>	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		<b>評点(〇〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p><b>品質管理の仕組みによる継続的な改善活動を通じて、業務の標準化に取り組んでいる</b></p> <p>法人として保育サービスの分野で国際的な品質管理の基準に沿った取り組みを継続的に行い、専門の認証機関による定期的な審査を受けている。また、所定の研修を受けた社員が法人の定める点検表に沿って毎年内部監査を行い、その結果を各事業所にフィードバックして、振り返りの材料としている。点検表には300以上の項目ごとに確認の方法が具体的に示されており、業務の標準化に対する法人の強い姿勢がうかがえる。今後、保育所保育指針や関係法令の改定を踏まえた用語や内容の見直しを継続的に図ることが期待される。</p> <p><b>保育品質マニュアルの活用や職員研修により日常業務や緊急時対応の標準化を図っている</b></p> <p>法人の定める保育品質マニュアルは、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、保健計画、食育計画、給食提供の各領域で構成されており、入職時に正職員全員に冊子が配布されている。各自必要なページにインデックスをつけて素早く確認できるようするなど、工夫しながら活用している。また、緊急時の対応や通報のフローチャートを電話の近くに掲示している他、アドレナリン自己注射薬の練習キットを使った研修や園内に備え置かれた衛生用品の一式を使用した嘔吐物処理の実演訓練等を行い、職員が落ち着いて対応できるように努めている。</p> <p><b>マニュアルを定期的に見直す過程において、現場の意見を反映する仕組みを整えている</b></p> <p>法人として現場の職員の前向きな意見やアイデアを大切に、それらを積極的に取り入れて体験学習の企画や職員研修の内容に活かしている。保育品質マニュアルを毎年見直す過程においても、現場の意見を集約して改定につなげる仕組みを整えている。今後は法人全体で年1回、園ごとに実施する保護者アンケートの集計結果についてもマニュアルを見直す際の材料に活用することが期待される。また、相当な分量のある保育品質マニュアルについて、その内容が細部にわたって現場に周知されているかを点検し、現状の把握につなげることが望まれる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p><b>子どもの主体性を尊重し、自分で考え、行動する思考を育む保育を実践している</b></p> <p>0～5歳児が共に暮らし、頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を子ども自らが選択し、行動できるようにするための「ゾーン保育」を実施している。縁側のある1階とテラスのある2階の園舎全体と、築山のある園庭を使って、さまざまな遊びのコーナーを設け、子どもたちは自由に行き来している。午前中は、朝のリズム体操や歌、1分間の座禅、雑巾がけ等の後は散歩を日課にしているが、今年度からは、子どもの主体性を何より尊重し、散歩、園庭遊び、室内遊びの中から子ども自らが活動を選択できるよう支援している。</p> <p><b>子どもの発達の状態に応じて、分け隔てなく援助している</b></p> <p>すべての子どもが分け隔てなく一緒に頼り合い、ぶつかり合い、教え合うインクルーシブ保育を目指している。観察調査の日の朝のリズム体操の時間には、全員の子どもが1階の幼児室に集まり、保育士の弾く電子ピアノの曲に合わせて、主にクラス単位で隊形を変えながら元気よく体を動かしていた。気の向いた時だけ加わる子や保育士にべったりの子もいたが、子どもの気持ちを尊重し、無理なくその場にいられるよう配慮している。0～2歳児については毎月、年齢に応じて設定した項目に沿って発達段階を確認し、愛着形成と個々の発達支援をおこなっている。</p> <p><b>就学を見据えて学習の時間を設け、要録や就学支援シートで小学校と情報を共有している</b></p> <p>小学校教育への円滑な接続に関しては、要録を作成して進学先の小学校と共有するほか、希望する保護者に対しては、市作成の就学支援シートを用いて、子どもの行動の特徴や人との関わり、引き継ぎ事項等を小学校と共有している。年間を通して幼・保・小地区連絡会に園長等が参加して連携するほか、近隣小学校の1年生や5年生との交流も実施している。小学校の学習への準備として、5歳児を中心に、子ども一人ひとりのペースに合わせた学習や、発達段階に合わせた体操指導、鍵盤ハーモニカ等の指導の時間を、週1回それぞれ30分設けている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p><b>保護者と園は専用アプリを用いて、子どもの状態や園での活動等を共有している</b>  保護者とは、専用アプリの連絡帳機能を使って、子どもの様子や健康状態等を共有している。乳児については、体温、体調、睡眠、食事等について、登園までに保護者が入力して送信する。園からは体温、午睡、トイレ、授乳の回数・量、オムツ等について、主に子どもの午睡中に入力して送信する。そのため保護者は園に迎えに来る前に、その日の子どもの様子を知ることができる。そのほかに、タイムライン機能を用いて子どもの活動の様子を順次投稿し、保護者と共有している。</p> <p><b>離乳食は、調理員が保護者と連携して、子ども一人ひとりの状況に合わせて進めている</b>  降園時はお迎えの保護者で混雑する日も多いため、口頭での保育内容を共有するとともに、子どもの様子を臨場感のある写真を専用アプリで配信するなど、視覚的にわかりやすい工夫している。基本的な生活習慣の一つである食に関して、0歳児については、調理員は毎週保護者と連絡を取り合い、子ども一人ひとりの状況に応じて、離乳食を進めている。新しい食材はまずは家庭で試すこととしており、園の献立に応じて、無理なく家庭で試せるよう、調理員は保護者に声をかけている。</p> <p><b>園会議で子どもの状況を共有し、職員が声をかけあってトイレトレーニングを実施してる</b>  1歳児は、朝の水分補給の前と散歩後、午睡明け、夕方の4回、保育士が一人ひとりに声をかけて、行きたい子どもがトイレに行く。トイレに行けたらシールを貼り、意欲を高めるようにしている。0、1歳児の午睡に関しては、睡眠開始以降5分おきに生存を確認し、その様子は専用アプリを通じて、保護者はオンタイムで確認できる。5歳児は、10月の運動会以降は午睡をせず、「5歳児だけの時間」を設けている。個々のペースに合わせた学習や、発達段階に合わせた体操、鍵盤ハーモニカの練習、机上遊び等を通して、小学校への準備と意欲を高めている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる空間づくりを目指している</p> <p>「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育むことを理念として掲げ、「ゾーン保育」を実施する中で、子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間を配慮するようにしている。観察調査の日は雨で、2階に低年齢向けの運動、粘土遊び、休息、1階にルールのある遊び、組み立て遊び、おままごと、お絵描き等のコーナーが設けられ、各コーナーには保育士が付き、子どもたちは自分のやりたいコーナーに自由に移動して遊んでいた。廊下や縁側で好きな遊びを続ける子どもの姿もあった。</p> <p>日常の保育の中で、泥んこ遊びや木登りができる環境が用意されている</p> <p>園庭には土の山が設けられており、穴を掘ったり水を流したり、泥んこ遊びをしたり、子どもの発想で自由に遊べるようになっている。泥んこになった体や服、靴は、幼児は自分でたらいで洗う。木登りできる木も用意されている。利用者アンケートにおいては、園での活動は子どもの心身の発達に役立っていると思うか、子どもが興味や関心を持っておこなえる活動か、という両設問において、9割を超える保護者が「はい」と回答しており、体を動かして遊ぶ保育内容に保護者はおおむね満足している。</p> <p>子ども同士の関係性の中で成長できるよう、子どもの選択を尊重し、見守っている</p> <p>表現活動としては、リズム体操や、普通の遊びの中で自由に描いたり、作ったりできるコーナーを設けるほか、季節に応じた制作活動もおこなっている。5歳児クラスでは、話し合う機会を設ける等して、遊びに関するルールは、子ども自身が決めるように支援している。大人は子どもの選択を尊重し、最後まで見届けることを、園の今年度の行動規範の一つと掲げている。実際、観察調査の日に、おままごと遊びのコーナーで、気持ちの整理の付かない子どもの言い分を聞き、じっと見守り、自ら仲立てできるよう支援する保育士の姿があった。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>さまざまな行事に加えて、計画的に里芋を栽培し、初めて芋煮会を実施した</p> <p>園の年間行事は、子どもに体験させたいことを保育士が企画・提案する法人独自のプロポーザル制度により決定している。毎年ボディペンティングやどろんこ祭り、泥プール、焼き芋大会、相撲大会など多くの行事をおこなっているが、今年度は初めて11月に芋煮会を実施した。年間を通じた農業計画の中で、子ども達が春に土づくりから始め、里芋を植え付け、秋に収穫した。当日は、保護者に加えて地域の方々も参加した。</p> <p>子どもの発想や発案を基に生活発表会を組み立てている</p> <p>7月のどろんこ祭りは、保護者も一緒になって楽しめる夏祭りや、ゲームや制作のコーナーや、調理員が作ったカレーと飲み物のコーナー等があった。見学を兼ねて参加する地域の方もいた。2月の生活発表会は、子どもの発想や発案を基に内容を組み立てている。例えば2歳児は、リズム体操の中で子どもたちが気に入ったフレーズを用いたリズム遊びを披露する。5歳児は、担任が読み聞かせた小説を劇にすることを、子どもたちの話し合いで決めた。準備の段階から、子どもが主体的に関心を持って行事に取り組めるように支援している。</p> <p>行事後のアンケートで保護者の意向を確認し、次年度の計画に活かすようにしている</p> <p>行事の後には、専用アプリで保護者にアンケートを実施し、次年度の計画に活かしている。今年度の行事については、会場の都合で運動会の日程が変更されたため、利用者アンケートの行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされているか、という問いに「はい」と答えた保護者は5割程度になっている。一方、平日の夜に開催される懇談会の日時について、肯定的な意見もある。園は今後、早めの計画立案で、余裕をもって準備を進めて、保護者の理解や協力を得たいと考えている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
<p><b>長時間保育において、子どもがくつろげる空間づくりを検討している</b>  開園時間は7時～20時で、2階で遊んでいる子どもたちは18時前に1階に下りる。保護者のお迎えは17時半頃から多いが、18時以降も20人以上の子どもが毎日残っている。園舎1階の幼児クラスの保育室はオープンな造りのため、子どもの数が次第に減ってくると、残っている子どもが寂しく感じてしまうことがある。事務室を活用したり、お手伝いを頼む等して、子どもが寂しさを感じないような工夫をしている。今後は、できるだけ人と人の距離が近づくよう、1階の絵本コーナーを安心できる空間として活用すること等を検討している。</p> <p><b>延長保育の時間も、通常の保育同様、子どもの主体性を尊重した保育をおこなっている</b>  0～5歳児が共に暮らし、遊びたい相手や遊びたい場所を子ども自らが選択し、行動できるようにするための「ゾーン保育」においては、延長保育の時間も、保育形態に大きな変化はない。園庭で遊んでいる子どもたちは、日没までに室内に入ることになっている。お迎えが19時半を過ぎる場合は、希望により19時に夕食を提供している。夕食も手作りの温かいものを提供するほか、人数が1、2人の時は、2階の比較的小さな一時保育室を利用する等して、落ち着ける空間を作っている。</p>			
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p><b>自分で盛り付けて自分で選んだテーブルに運び、職員と一緒に昼食とおやつを食べている</b>  幼児クラスでは、天気の悪い日以外は毎日、縁側にテーブルと椅子を出して昼食とおやつを食べている。保育士・施設長をはじめ、すべての職員がどこかのテーブルに加わり、子どもと一緒に同じものを食べる。子どもは、一緒に食べたい子どものところに行ったりして、座る位置は毎回自分で選んでいる。調理員が見守る前で子どもは一皿ずつ、食べられる分量を盛り付けて、テーブルに運んで食べ始める。食べ終わると三々五々、自分で食器を片付け、水場の近くで歯磨きを始める。おかわりは2回まで自由で、観察調査の日には、モリモリ食べる様子が見られた。</p> <p><b>調理員は子どもの喫食状況や評判を体感しながら、調理の仕方や味付けを工夫している</b>  調理員も子どもたちと一緒に食べることで、子どもたちの喫食状況や評判を体感するほか、食材の組み合わせや調理のしやすさ等について毎月振り返り、献立を作成している法人のレシピチームに報告している。2週間毎のサイクルメニューのため、1周目の評判を2周目に活かすようにしている。アレルギーのある子どもの席は固定制とし、顔写真付きの専用トレイを用いて、除去食を提供している。利用者アンケートによれば、食事やおやつは子どもの状態に配慮し、工夫されたものになっているか、という問いに、9割近い保護者が「はい」と答えている。</p> <p><b>年間を通した農業計画の下、子どもたちが野菜を育て、食育活動や行事に活用している</b>  食について関心を高めるための取り組みの一つとして、子どもたちが種や苗から野菜を育て、収穫した野菜を給食に利用したり、野菜の下ごしらえを子どもたちがおこなったりしている。春には田植え、秋には稲刈りも体験している。月1回、食育活動を計画し、今年度は5月に、届いた梅で梅干しやジュースを作り、夏には収穫したトマトでケチャップを作り、秋にはみそを作った。食育活動は、1歳児クラス以上の子どもたちが、発達段階に応じて取り組んでいる。保護者に向けては毎月、食に関する豆知識を盛り込んだ食育だよりを配付している。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>看護師が中心になり、手洗いや歯磨きを指導している</p> <p>病気やけがの予防・防止に関しては、子どもたちに対して看護師が、手洗い指導をおこなっている。毎月のお楽しみ会の中で、手洗いの大切さを紙芝居で子どもたちに知らせたこともある。歯磨きについては、2歳児以上の子どもたちを対象に、看護師が指導している。午睡時の生存確認に関しては、「プレスチェックの4つの項目」と題したポスターが乳児室に掲示され、5分おきにチェックしている。体調が気になる子どもについては、午睡時に各クラスの担任と情報を共有している。医療的なケアが必要な子どもは現在在籍していないが、受け入れる用意はある。</p> <p>裸足保育でケガをしない強いからだを育て、リズム体操で身体機能の発達を促している</p> <p>足指で地面をとらえる力を育て、歩く、走る、跳ぶ、飛び降りる、よじ登る、横や後ろに動くことができるようにし、運動感覚を育てることを目的に、全クラスで裸足保育を実施している。与薬に関しては、登園時に与薬依頼票と薬、薬剤情報提供書を保護者から受け取り、与薬ポケットで一括管理している。与薬後は、与薬完了ポケットに移し、降園時に保護者に返している。保育中にけがや疾病で受診が必要と思われる場合は、法人の指示を受けてから園が子どもを医療機関に連れて行く。発熱の場合同様、保護者に連絡は入れるが、すぐのお迎えを要請はしない。</p>			
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>持ち物等において保護者の負担を軽減し、お迎えの時間変更にも柔軟に対応している</p> <p>保護者と協働して子育てする、という運営理念の下、できる限り保護者の負担を軽減するよう、保護者が準備する持ち物は極力少なくし、オムツはバック単位で預かり、職員が記名して使用する。急な発熱等の際、連絡は入れるが、急なお迎えは要請しない。残業等で迎えが急に遅くなる連絡が入れば、対応している。当日でも16時までには連絡を入れれば、夕食の追加予約ができる。利用者アンケートによれば、急な残業などで予め取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれるか、という問いに、9割近い保護者が「はい」と答えている。</p> <p>平日の夜に懇談会を開催し、子どもの発達段階に応じた目標等を保護者と共有している</p> <p>保護者懇談会は乳児・幼児クラスに分けてそれぞれ2回、平日の18時～19時に実施し、約9割の保護者が出席した。子どもたちの生活の様子や発達段階が手に取るようにわかる、写真をふんだんに用いた冊子を全保護者に配付した。すべてのクラスの子どもの発達の様子がわかる冊子にすることで、保護者が自身の子ども発達に見通しを持てるようにすることもねらいの一つとした。クラス毎に現段階の子どもの発達に応じた目標を明示するほか、制作や絵画における発達について、実際の絵の写真を載せて、変化が見て取れるような工夫もされている。</p> <p>保護者の自主的な協力を得ながら、行事等を運営している</p> <p>個別面談は、5歳児については2、3月に実施する。他のクラスについては、随時、希望者を中心に面談している。面談後は、相談の内容と当面の対応、その後の支援経過を記録している。保育参加は、前日までの申し込みによりいつでも受け入れている。午前中から子どもと一緒に遊んで昼食を食べる保護者が多い。任意で園の行事等に協力する保護者を、園では「どろんこサポーターズ」と呼び、どろんこ祭りで役割を担ってもらった。園庭の築山を高くするための土の搬入等、応援の必要な際はその都度保護者に声をかけ、サポーターズを中心に協力を得ている。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>計画的に地域の店や公共施設を訪れ、子どもが保育士と一緒に銭湯の湯に浸かっている</p> <p>毎日の散歩や戸外活動のほかに、地域との交流や、さまざまな仕事を目にし、大人と目を見て話すことを目的に、商店街ツアーと題した活動を毎週実施し、子どもたちは地域の小売店やスーパーマーケット、消防署や郵便局等を訪れている。保育士がより保護者に近い存在になるために、月1回、契約している銭湯に幼児と出掛け、保育士は子どもと裸の付き合いをしている。幼児は老人ホームを定期的に訪問し、歌を披露する等して、入居者と交流している。年1回、職業体験の中学生を受け入れ、交流している。</p> <p>毎日園を開放し、週3日親子の居場所を運営し、子どもたちは地域の親子と交流している</p> <p>どろんこ祭りや芋煮会等の行事は、近隣にポスターを貼って参加を呼び掛けた。子育て支援事業として、毎日園を開放し、子育て相談にも応じている。週3回、園の一室を地域の親子の居場所として開放し、希望する親子は、園児と一緒に遊んでいる。毎週水曜日には、親子で簡単クッキングが楽しめる企画が用意され、各回ともすぐに定員に達している。ほかに制作や外遊び等もおこなわれている。月1回、近隣の公園で、紙芝居や絵本を読み聞かせる等の青空保育も実施している。昨年度はこれらの事業に、合わせて延べ1348人が参加した。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	自分が食べるものを自ら育て、つくる体験を通じて、子どもが命の成り立ちを学んでいる	
内容①	市民農園を借り、年間計画に沿って、土起こしからうね作り、種まき、苗植え、水やり、収穫までの一連の作業を子どもたちが年齢に応じた関わり方で体験している。採れた野菜を給食の食材に使用し、食事の前に子どもたちに知らせることで、食べ方にも変化が表れている。また、幼児を中心とした味噌や梅ジュース、トマトケチャップづくりを体験をしている。自分たちが食べるものを自ら育て、つくる体験を通じて、子どもたちは命の成り立ちを自然と学んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル②	法人として年長児に対する性教育を実施し、保護者にも指導のポイントを伝えている	
内容②	法人では10年以上前から年長児を対象に性教育を実施している。子どもが大人から性被害を受けるリスクに加え、性に関する不適切な情報に家族のスマホ等で簡単にアクセスできてしまう状況において、子ども間での性被害加害のリスクが高まる中、身近な大人が子どもに対し健全な性に対する知識を伝えることが何より重要として、指導のポイントを具体的に整理し、5歳児に対する保育において実践するとともに、その内容を保護者にも伝えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	近隣の店舗等を訪問して、そこで働く大人と交流を図る取り組みをおこなっている	
内容③	子どもたちが地域社会を支える人々の様々な仕事を知り、知りたいことを言葉にして相手に伝える体験をする「商店街ツアー」と称する活動に法人全体で取り組んでいる。子どもたちが自分の暮らす街にあるいろいろな店舗や会社、施設等を訪れ、そこで働く大人に仕事について質問し、交流を図る活動を週1回実施している。当園でも近隣の園芸店や郵便局、消防署、精肉店、自転車屋、薬局などを子どもたちが訪問する中で、地域の中に顔見知りの関係が着実に広がっており、子どもたちの育ちを地域社会が支える土壌の形成に資する活動となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが毎日楽しく保育園に通うことが何よりの保護者支援と考え、子どもが自分の過ごした場所や活動等を自分で選べる環境を整えている
	内容	法人の方針を踏まえ、子どもの主体性を尊重した保育を目指している。オープンスペースの幼児の保育室には棚等で仕切って様々な遊びのコーナーを設け、子どもたちがそれぞれの興味に応じて、友だちと一緒に、あるいは並行して遊びに集中する姿が見られる。午前中は朝のリズム体操や歌、1分間の座禅、雑巾がけ等の後、天気がよければ散歩を日課にしているが、今年度からは散歩、園庭遊び、室内遊びの中から子ども自ら活動を選択できるようにした。自分が過ごしたい場所や相手、活動を選べる子どもにとっては何よりの安心感につながっている。
2	タイトル	職員が伸び伸びとそれぞれの能力を発揮する環境を整えることでモチベーションの向上を図り、定着につなげている
	内容	開設3年目の今年度から施設長が交代した。若い職員が多い中で、失敗を恐れず、仲間とともに伸び伸びと仕事をする中で、それぞれが持っている能力を発揮することを重視する姿勢を打ち出し、職員集団のモチベーションの向上を図っている。今年度は行事計画の検討の場で出た職員のアイデアから、畑作業で子どもたちと里芋を栽培し、収穫物で芋煮会を実施して、子どもと保護者及び近隣住民にも喜んでもらった。そうした体験を積み重ねることで職員が保育の楽しさを知り、さらに意欲を高めている。その取り組みの成果は、職員の定着状況にも表れている。
3	タイトル	子育て支援事業に力を注ぎ、地域の子育て家庭の居場所や交流の場として定着している
	内容	地域の親子が気軽に立ち寄れるバリアフリーの社会資源となることを目指して、子育て支援事業に力を注いでいる。専任の職員を配置し、2階に設けられた専用の部屋を週3回開放して、地域の親子同士の交流を支援している。毎週水曜日には親子で簡単なクッキングが楽しめる企画が用意され、毎回定員を超える申し込みがある。他にも制作や外遊び等の活動があり、園児と一緒に子ども同士が交流することもできる。月1回、近隣の公園で地域の親子を対象にした「空青保育」も実施しており、昨年度はそうした事業に合わせて延べ1300人以上の参加があった。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	法人の方針を踏まえ、異年齢の子どもの育ち合いを引き出す指導計画の構成と個別の保育のねらいの保護者との共有に向けた検討が期待される
	内容	乳児クラス以外は異年齢保育を基本としているものの、年間及び月間指導計画は年齢別に作成されている。異年齢の子どもたちがともに生活し、遊び、労働を教え合うという法人理念の実現を図るためには、保育を通じて子どもたちの育ち合いをどのように引き出していくかという視点に立った指導計画の構成と、それに基づく計画的な保育の展開が望まれる。また、家庭と連携しながら子どもの生きる力の基盤形成を支えるためには、個別の保育計画における月ごとの保育のねらいを保護者と共有することが重要と考えられる。その現実的な方法の検討が期待される。
2	タイトル	フロア間の子どもの自由な移動に不安を感じる保護者の声を受け止め、ていねいな説明を行うとともに、不安の解消に努めることが期待される
	内容	子どもたちが自分の好きな場所で過ごせるよう、園内に設けられた柵の扉を時間を決めて開放し、フロア間を自由に移動できるようにした。実施に先立ち、保護者に取り組みの意図や経緯を伝えたものの、不安の声は強く、今回の利用者調査においても、安全対策が十分と考える保護者は4割に満たない結果となっている。取り組みを始めて以降、実際に事故が発生しているわけではないが、今回の調査結果を踏まえ、保護者の不安の原因を分析したうえで、安全対策のさらなる強化につなげることが期待される。
3	タイトル	職員の専門性をさらに高めながら、信頼感を基盤として保護者と子どもの育ちをともに支える関係を築くことが期待される
	内容	今回の利用者調査の結果を見ると、普段の保育が子どもの心身の発達や興味・関心に沿っているかといった項目では非常に高い満足度が示されている一方、職員との間に相談できるような信頼関係があると答えた保護者は6割程度にとどまっている。今後、保護者の信頼を得るための仕組みを最大限に活用しながら、子どもの日々の発達や姿を的確に捉え、それを保護者に伝えることで、子どもの育ちをともに支える関係をより一層強化するとともに、各職員の能力向上のための取り組みや、保護者と気軽にコミュニケーションをとれる工夫に期待したい。